



すいた
今昔

高浜神社前の大通り。
戦前は商店街でした。
戦争は命も財産も
奪ってしまいました。

その昔、吹田市は市域南部の高浜神社を中心とした街が形成されていった。神崎川の水運を利用して大阪から京の都へ船が上る、その商場町として高浜神社界隈が栄えた。

裏表紙の写真は、その高浜神社参道にあった床島呉服報知店。明治時代に開業した歴史ある呉服店。終戦直前の昭和20年6月、「空襲に備える」「防火対策だ」との理由で取り壊され、「疎開道路」に

なった。

神社の鳥居前、現在のバス通りはかつては商店街だったのだ。

「通知が来て、3日後に立ち退きですわ。すべてが軍事優先の時代。店を壊された代わりに国債をもらったんですが、終戦と同時にそれもただの紙切れ。さっぱりですなあ」とは、写真中央に写る床島央明さん。

戦争は命も財産も奪ってしまう。床島さんたちは「戦争やったらあかん」と語り続けている。

すいた市民しんぶん

2010.7 JULY

vol. 18

この新聞は定期的に発行し、吹田市民のみなさまにお届けしています。

CONTENTS

すいた市民しんぶん ピース座談会

唯一の被爆国として核兵器廃絶の先頭に
吹田で平和運動を大いに盛り上げて

緊急！市政ウオッチ 国保料値上げ、駅前再開発
山積する問題があるのに…「上海万博」!?

ルホ・アフガニスタン

戦争と子ども 劣化ウラン弾の悲劇

アフガニスタン〜日本

絵画を通じてエールの交換
届け世界へ平和の願い

吹田湖愛主義 小女郎稲荷の記憶を求めて 12

勝手に吹田通産部
絵師吉田初三郎と「吹田鳥獣園」 11

戦火に撃ったアスリート 西 竹一 14

いむみせいじのタテジマ文化論 10